

# 認可保育園で空き増 コロナの影響

入園が難しいとされてきた認可保育園の0歳児クラスに、今春、大都市圏などでも空きが出る異変が起きている。このまま、長引く新型コロナウイルスの流行が影響を及ぼして、経営不安を訴える園も出てきている。

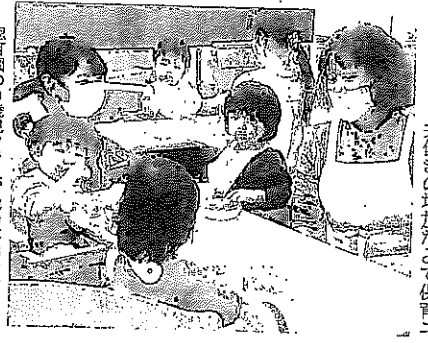
「コロナ禍での復職は、やっぱり不安だ……」

大阪市の30代の女性は、昨年8月に生まれた0歳の次男を、4月から認可園に入れるかギリギリまで悩み、結局申し込みを止めた。

原因は昨春の苦い記憶だ。いま3歳の長男が保育園に通っていたが、コロナ禍で登園自粛要請があり、女性が在宅勤務をしながら子どもの世話をして過ごした。

今後、感染状況次第では、また自粛要請があるかもしれない。「職場復帰すれば、在宅勤務で2人の子どもの面倒をみることになる。無理だと思ったんです」

## 「激戦」0歳児クラスに異変



認可園の0歳児クラス。他の年齢の子どもよりも配置される保育士が多い。東京都板橋区のおたけ保育園。

### 欠員で補助金減 経営に不安

園児不足は、保育園の経営に直結する。園は定員数に合わせた職員配置を整えておく必要があるが、行政から補助される運営費は、入園している子どもの数に応じて支給される仕組みだ。定員数と実際に預かる子どもの数の差が出れば、園の持ち出しが増える。特に、0歳児の場合、子ども3人につき職員1人と手厚い配置が必要なため、影響が大きくなる。

世田谷区のある認可園では、0歳児クラスや幼児クラスに数人の空き枠が残る状態で新年度を迎えた。駅から徒歩10分ほどの住宅地にある園で、こじんまりとした初めだ。園長は「長引けば経営に影響する」と不安を口にする。

さらに深刻なのは、立地など、都心へのアクセスが便利

日新聞が全国の主要自治体に聞いたところ、例えば東京都23区の認可園の申込者数は前年より5千人以上減り、うち0歳児が1468人だった。理由を尋ねたところ、コロナ感染拡大による利用控えや雇用悪化などの影響を、多くの自治体担当者が指摘した。

大阪市では4月1日時点で、市内の認可保育園の0歳児クラスで定員に1千人以上の空きがあった。

東京都世田谷区でも、今春の0歳児クラスの募集数（1次選考時点）は1464人だったが、230人余りが新年度までに埋まらなかった。

な駅周辺などではいまだに希望者が集中している。「とにかく定員の量的な拡大をすればよい時代ではなく、いかに細かいニーズ把握を、いかにミスマッチを防ぐことができるかが大事になってくる」（中井なつみ）

●コロナ災害を乗り越える ひととくらしを守るなんでも電話相談会 24日、午前10時～午後10時。「新型コロナウイルス感染拡大の影響で雇い止めにあった」「家賃が払えない」「生活保護を利用したい」など、幅広い相談に法律家や福祉・労働の専門家に応じる。無料。フリーダイヤル（0120・157・930）。同相談会の実行委員会主催。

#### コロナ告知板